

TOPIX

- ▶ ごあいさつ-平成25年度を迎えて-/病院長 万代 恭嗣
- ▶ 不整脈治療の病態と治療~進化した現代の不整脈治療の実践~/心臓病センター循環器内科 野田 誠
- ▶ 当院呼吸器内科の特色/呼吸器内科部長 徳田 均

▶ ごあいさつ -平成25年度を迎えて-

病院長 万代 恭嗣



新たな年度を迎えるにあたり、当院の医療連携について日頃からのご援助につき、あらためて御礼申し上げます。

さて、私共の属する社会保険病院とさらに厚生年金病院、船員保険病院の3つの病院グループは、平成26年4月より、独立行政法人地域医療機能推進機構(以下、「新機構」)に運営が移管され、あらたな公的病院グループとして発足します。社会保険病院は、戦後間もない時期に保険診療が日本国内に充分行き渡らない点を解消するなどの目的で設立されました。さらに平成9年6月には、「今後の政府管掌健康保険保健福祉事業の在り方について」が報告され、社会保険診療に係る新たな取組を率先して行い、社会保険診療の充実発展に寄与することが、その存続意義として加えられ、診療報酬におけるDPC制度などに積極的に取り組んできました。また、平成15年からは、医療機器や設備に対しての一切の補助金がなくなり、自主独立した経営方針のもとでの運営もしてまいりました。

今回は、運営主体が変更となるばかりでなく、病院自体の名称も全く新しくなります。したがって、その運営理念も、以下に述べるように、新たに設定されることとなりました。

即ち、わが国では、近い将来には未曾有の高齢化社会となり、人々は複数の疾患を抱え、身体機能の低下と共に認知症なども新たな課題となり、ニーズは益々多様化することから、新機構の理念は、「地域医療、地域包括ケア連携の『要』として、高齢化社会に於ける地域住民の多様なニーズに応え、人々の生活を支える。」となりました。これを果たすために、新機構全体として取り組むべき柱として、幅の広い診療能力を持つ「総合医」の養成に積極的に関与し、専門医との協働及び連携強化によりシームレスな地域医療の構築に向け貢献し、さらに医師会や市区町村等の自治体と協働し、住民が安心して暮らせる地域包括ケア実現に積極的に寄与する、こととなりました。

もちろん、全国にある社会保険病院や厚生年金病院は、これまでの歴史のなかで各地域において地域に合わせた医療機能を提供してきましたので、新機構全体の柱に加えて、個々の病院が取り組むべき柱として、地域における連携を強化し、5疾病5事業をはじめ地域住民の多様なニーズに応え、地域医療、地域包括ケアの充実に一層貢献するとされています。

ここでは、「地域医療、地域包括ケア連携の『要』」について、

私の基本的な考えを案内したいと思います。まず、「要」というと扇の要が想像されます。扇面を支える中骨を1点で束ねるのが要であり、中心的な意味合いが強い語です。しかし、ある地域において、これを支える医療や介護に関する施設や人は数多く存在します。そのような中で、当院が一部では中心的役割を果たせても、全てにおいて中心となれるはずもなく、たとえ成り得たとしても地域医療や包括ケアがうまく運営される構造とはならないでしょう。むしろ、地域連携や地域包括ケアを担当する機関が鎖でつながっているとすれば、その連鎖のひとつの輪として、当院の医療機能のすべてを最大限に発揮してその役目は果たすことであり、ときには連鎖の流れを促進するコーディネーターの役割も果たすべきと考えております。

また、地域包括ケアの充実に資する方策として、地域医療、地域包括ケア連携の「要」となれる医療人を育成し、総合医の養成に深く関与することも定められています。時まさに厚労省の専門医の在り方に関する検討会では、総合診療医が第19番目の基本的専門領域として設定されました。来るべき高齢化社会は、都市部でも始まりつつあり、少ない労働人口でどのように増加する高齢者を支え、看取ってゆくかは、待たなしの状況です。この構造は医師においても同様であり、統合と文化の両方向が必要で、すなわち、急速に進む医療の高度化に対応する一方で、幅広い診療能力を有し、地域包括ケアを推進する医師が必須となります。当院としても総合診療医の養成を開始しており、専門医との連携のなかで、近い将来総合診療医が活躍できる場を院内にも構築する予定であります。

他方、これまで各地の社会保険病院が提供してきた急性期、慢性期の医療についても、前述のごとく「地域のニーズ、病院の特色を踏まえ、連携を強化し、地域住民の多様なニーズに応える」との方針から、これまで当院が果たしてきた役割をさらに充実させてゆくことがわれわれの使命と考えております。

地域包括ケアの促進と総合医の養成、さらには個々の病院が積み上げてきた医療内容のいずれをとっても、これまで以上に地域の先生方と一層の連携をとることが求められています。あと1年で長年慣れ親しんでいただきました社会保険中央総合病院の名称は使えなくなりますが、当院の地域における役割をより高めて果たして行く所存ですので、今後ともご支援ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。